



Red Hat
「グローバル ラーニング サービス」

Linuxを基礎から学習することで スキルを体系化することができました。

LinuxのバイオニアであるRed Hatが提供している「グローバルラーニングサービス」は、世界標準のLinuxトレーニングと、受講者（技術者）のスキルを認定するプログラムで構成されている。その特徴は、より実務に近い環境で実技ベースのトレーニング&試験を行っていることである。ここでは、RHCE（Red Hat Certified Engineer）を取得した方に、資格取得の目的や受講したトレーニングコースの内容、現在の業務での活用などについてお聞きした。

【RHCE 資格】

自分が努力した“価値”を
業務の中で実感しています

憐エクオス・テクノロジー
山田 隆史氏

はじめに、現在の業務についてお話をいただけますか。

山田 Linuxをはじめとしたオープンソースを活用したシステム構築の上流工程にあたるコンサルティングを行っています。内容は、オープンソースの特性やメリットからシステムを構築する際の注意点、アドバイス、そしてハードウェア/ソフトウェア製品の選定のポイントやシステム構築後の運用管理など、かなり広い範囲です。また当社は、特定非営利活動法人「日本オープンソース推進機構」の事務局を務めていますので、お客様となる企業は、特定の業種に偏ることなく、あらゆる業種の企業に及び、自治体等に対しても数多くコンサルを行っています。

RHCE 資格を取得された目的についてお話をください。

山田 2003年末頃からトレーニングを受け始め、2004年2月にRHCE資格を取得しました。Linuxやオープンソースについては、以前から独学で学習してきましたが、現在の業務を行っていく中で、自分の知識が体系化されていないことに気づきました。そこで、世界的にも有名なRHCE資格のことで知り、レッドハット社が提供しているLinuxトレーニングコースを基礎から段階的に学習し、自分が今までに学んだ知識を体系化しようと思いました。

受講されたトレーニングコースについて教えてください。

山田 レッドハット社が推奨しているRHCEトレーニングコースに沿って受講していきました。はじめに、Linux環境の基本を学習する「IT技術者向けRed Hat Linux総合トレーニングコース（RH033）」。

次に、Linuxシステムのインストールと設定を行いながら既存のネットワークに接続する方法を学習する「システム管理コース（RH133）」。そして、ネットワークサービスの設定方法やセキュリティ管理の方法を学習する「ネットワークサーバ構築およびセキュリティ管理コース（RH253）」を受講しました。

トレーニングコースを受講された感想について、お話をいただけますか。

山田 どれもハードな内容でしたが、ハードな分だけ身に付くことも多かったと思います。各トレーニングコースは、実技ベースの学習がほとんどでしたので、まさに“必死”に取り組んでいかないと身に付かないものばかりでした。しかし、より実務に近い環境でさまざまなことを学べたので、実践的なスキルを身に付けることができました。

RHCE 認定試験も実技が中心とお



㈱エクオス・テクノロジー
プロフェッショナルサービス・グループ
エンジニア
山田 隆史氏

TOPICS

RHCE認定者が、さらに高度なトレーニングを必要とする場合、エンタープライズ向け(RH401)コースに参加して、「RHCA (Red Hat Certified Architect)」の資格を目指すことができる。

聞きましたが。

山田 その通りです。RHCE試験は、実務的なスキルを測る実技試験として、最も重要度が高いネットワークサービスに合わせて、Red Hat Linuxを確実にセットアップして管理する能力をテストされます。試験問題は、大きく2つに分けられます。まず、トラブルを発見してそれを修復する「トラブルシューティング試験」。そして、仕様書に沿ってシステムをインストールし、その上でサーバの設置やネットワークサービス、セキュリティの設定を行う「システムインストール及びサーバ試験」です。両問題ともトレーニングコースと同様にとっても難しい内容ですが、世界標準の問題に対して、自分が身に付けているスキルを試す絶好のチャンスだと捉えることができます。と思います。

取得された資格を現在の業務どのように活用されていますか。

山田 RHCE資格を取得する過程

で学習した内容が広範囲にわたるものでしたので、お客様と会話している際に「このことはあの時に学んだことだな...」というように、物事の見解が増したような気がします。つまり、次のステップを踏むのが速くなったということです。お客様の要望に対してスムーズに回答できるということは、業務の効率化、スピード化とともに、信頼度の向上にもつながります。このことは、業務を進めていく上でとても役立っています。また、トレーニングコースと試験では、現在、最も広く使用されているRed Hat Enterprise Linuxを利用して行われたので、さまざまなケースにおけるLinux OSの活用法を学べました。OSを正しく理解することは、オープンソースをベースとしたシステム提案を行う上で、とても重要なことです。

資格を取得するまでに学んだことは、とても難しいものばかりでしたが、自分が努力した“価値”を、毎日の業務の中で実感しています。

Red Hat グローバル ラーニング サービス

Red Hatの「グローバル ラーニング サービス」は世界標準のLinuxトレーニングコース&認定プログラムとして、数多くの資格取得者を輩出してきた。トレーニングコースは、「認定エンジニア」「開発者向けエンジニア」「セキュリティ」の3つがあり、各受講者のレベルに応じたカリキュラムが用意されている。また各コースは、最も広く使用されているRed Hat Enterprise Linuxに対応しており、最新のLinux環境で、実習形式のトレーニングを中心に行われる。現在、各コースは、世界85ヶ所で提供されており、受講する場所に依存せずに、同じ内容と質のトレーニングを受講することができる。

【主な認定資格】

RHCT (Red Hat Certified Technician)
Linuxの資格を確立する上での最初のステップとなる資格で、Linux以外の環境から移行する技術者に最適な認定プログラム。

RHCE (Red Hat Certified Engineer)
1999年に始まり、既に世界で1万人以上の取得者を誇る、Linux専用技術者向け認定プログラム。実務的なスキルを測る実務試験によって認定される。

【お問い合わせ先】

レッドハット株式会社
グローバル ラーニングサービス
TEL : 03-6406-9900 FAX : 03-6406-9901
E-mail : training-jp@redhat.com
URL : http://www.jp.redhat.com/